

2021 J3 ■順位表■ 第17節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）  
（注：\*印は消化試合が  
数字分少ない）

1	熊本	30p	+7	20	13	H●
2	福島	29p	+6	25	19	AO H●
	富山	29p	+6	25	19	A●
4	岩手	28p	+7	24	17	AO
	岐阜	28p	+7	24	17	---
6	宮崎	27p	+3	22	19	HO
7	長野	24p	+12	25	13	A●
8	八戸	23p	+3	19	16	H△
1*9	鹿児島	22p	+1	19	18	HO
10	沼津	18p	-5	14	19	HO
11	藤枝	17p	-2	20	22	AO
1*12	YS横浜	16p	-7	15	22	H● AO
13	讃岐	13p	-14	15	29	HO
14	今治	12p	-5	15	20	A●
15	鳥取	11p	-19	14	33	AO

次回HomeGame

第21節 vs.FC今治

10/2 (土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 **ホームラン**

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

today's guest : **ガイナレ鳥取**

2020 J3 17勝6分11敗 勝ち点57: 5位

直近の対決と結果

2021/04/21  
J3-04節@A x i s

**鳥取 0-1 岐阜**

吉濱遼平 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		ガイナレ鳥取	
2021/09/04 J3-17節@ニッパツ YS横浜 0-3 岐阜		2021/09/05 J3-17節@とうスタ 福島 2-1 鳥取	
2021/08/28 J3-16節@長良川 岐阜 0-4 福島		2021/08/28 J3-16節@A x i s 鳥取 1-2 熊本	
2021/07/04 J3-14節@長野U 長野 2-1 岐阜		2021/07/10 J3-15節@藤枝サ 藤枝 0-2 鳥取	

●長い中断期間を挟んで、期待と共に迎えたシーズン後半戦。しかし8/28(土)第16節・ホーム福島戦では、福島の豊富な運動量に攻守で圧倒され、後半に4失点。攻撃では1点も奪えずに0-4と、重要なホーム戦で惨敗してしまっただけでなく、続く9/4(土)第17節・アウェイYS横浜戦では、大幅に選手を入れ替え、前節とは全く異なる戦い方で臨むFC岐阜。前半は膠着状態だったが、夏の移籍で加入した#44 深堀隼平が初ゴールを決めると攻撃が活性化。3ゴールを奪う一方で守備陣は無失点に抑えて3-0。前節での大量失点を、若干ではあるが取り返す形での勝利を挙げることができた。

この2試合を1勝1敗としたFC岐阜、順位を2位から昇格圏外・4位タイに下げた。幸いなことに首位・熊本との勝ち点差は2と、1試合の勝敗で逆転できる位置に踏みとどまっている。また、現在もJ3は首位・熊本から6位・宮崎までが勝ち点差3にひしめき合っており、この大混戦はまだまだ続いていきそうだ。1試合での勝敗や得失点の結果が、大きく順位を入れ替えることになるだろう。残り12試合、その1試合ごとを最後までひたむきに戦って、チーム一丸となって勝利を掴み取る必要がある。そしてなによりも、もうあんな無様な負け試合がホームで許されるはずもない。次節には試合がない岐阜、今節は全員が最後までひたむきに走り抜いて、そしてゴールを量産して勝利する姿を、僕らサポーターに見せて欲しい。

さて、今節の対戦相手はガイナレ鳥取。J3で8年目となる昨季は5位、岐阜よりも上の成績だ。今季は高木理己監督3年目体制の下でJ2昇格を目指していたが、シーズン序盤から成績が低迷。第7節を経過した5/4付けで高木監督を解任し、昨季まで鹿児島で指揮を執っていた金鍾成監督に交替したものの、その後も戦績は向上せず、現在も最下位・15位と苦しんでいるチームだ。ただし、今季後半戦の2試合は熊本と福島にそれぞれ1-2で惜敗しており、手応えは掴んでいるはずだ。今節は勝利のために死に物狂いで岐阜に挑んでくるだろう。現在の岐阜に、油断して勝てるような対戦相手は存在しないし、そもそも下位チームに油断して勝ち点を落としてしまう試合が、残念ながら岐阜には何度もある。今節こそは、しっかりと勝ちきって欲しいものだ。

現在の鳥取の不振には、昨季まで得点源だった#9 田口裕也と#11 大久保優が機能していないことが大きい。一方で連敗中の鳥取は、前節から大きく選手や戦術を変更してくることも予想される。岐阜としては、キックオフ直前の戦術変更や試合中の修正、そして選手交替が非常に重要になってくるだろう。また、負けたとはいえ熊本や福島にゴールを奪っている鳥取の攻撃陣を、2018年に鳥取へ期限付き移籍して成長を遂げたキャプテン#4 甲斐健太郎をCBの柱とする岐阜の守備陣が零封する試合を、僕らに見せて欲しい。昨季まで岐阜に在籍していた#18 石川大地と#21 永島悠史は、古巣対決で今節に対する気持ちも普段以上だろうが、活躍させる訳にはいかない。

鳥取との通算対戦成績は、J3での過去2年間は岐阜の2勝1敗・4得点4失点。前回対戦となった4/21(水)第4節アウェイ戦は、岐阜の選手に新型コロナ陽性反応者が出て開催中止となった代替試合。コンディション不良の岐阜だったが、#41 吉濱遼平がFKで奪った虎の子の1点を守りきって1-0での勝利。しかし、昨季のホーム戦・12/5(土)第31節では、シーズン終盤の重要な試合を0-2と敗戦。今節は、昨季のリベンジと今季のダブルを果たすためにも、勝たなくてはならない試合だ。

今もなお、新型コロナ「第5波」による『緊急事態宣言』が発令されている岐阜県内。今節も、岐阜のホーム戦での大きな魅力である、試合以外のイベントや屋台村などが軒並み中止となっている。そして新規感染者数は若干減少しているものの、9/12(日)までの宣言は延長される公算が高く、引き続き強い警戒が必要とされている。従って、スタジアムに集まっている僕らは、これまで以上に感染防止対策を徹底しながら、選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は絶対に出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第16節】岐阜0-4福島

●約2ヶ月間、試合がなかったJ3、そして我らがFC岐阜。この中断期間に新たな選手も加入して、成長を遂げたチームが、どんな試合を見せてくれるのか。そう期待して、試合以外には何も楽しみがなく（苦笑）、新型コロナにも警戒しなくてはならないスタジアムに、それでも多くの岐阜サポが集まった…のだけど（溜息）。

試合序盤は、それでもまだ互角といった感じで、岐阜にも攻撃のチャンスはあった。だけど、その時点でフィジカル的に福島の方が優位なのが明らかに分かってしまっ、僕は「えっ、この長い中断期間にフィジカル強化してないの？」って正直驚いた。後から聞けば、準備していた2回の練習試合が、2回とも選手のコロナ陽性反応によって中止となっ、コンディション調整できていなかっらしいけれど、それにしたって当たり負けしてるのはダメじゃないのかしら（溜息）。一方の福島は、得点源だったイスマイラが抜けた穴を埋めるべく長身FW #26 ガブリエルたちを補強したけれど、今節はベンチ入りもせず、それでも福島は岐阜を圧倒した。とにかく、よく動く。ボールを持ったら、まずは自分でドリブルして運ぶ。そして縦へのパス・裏抜けやセカンドボールを狙う。自分たちの陣形が崩れるのは想定済みで、そこは全員の運動量でカバーすればいいのだし、相手（岐阜）の守備が崩せばいいのだし、そもそも相手にボールを奪われなければ陣形が崩れようとも関係ないのだし（苦笑）。そして、その福島の選手を掴まえきれず、翻弄されて体力を消耗してゆく岐阜の選手たち。長い中断期間を費やして、パスの精度を上げることに注力したらしいんだけど、少なくともこの試合では、素人の僕が見たところでは『まるで成長していない…』としか（溜息）。パスの出し手・受け手とも、あまり動いていないので、素早い福島のチェックでミスをしてボールを奪われる。たとえ通ったパスでも、縦への推進力が弱かったり、大きなサイドチェンジもないので、すぐに囲まれてシュートチャンスまでに至らない。そもそも、J1レベルではほとんど通用しない、ハイプレス・ショートカウンターがJ2・J3では有効な戦術なのは、相手の素早いプレスをかわしつつ精度の高いパス交換をできる選手が少ないからで…。ドリブル主体なら、自分たちの体力が削られるけれど、走り負けしなければ、相手のパスを通させなければ勝機はある。そういう、今の自分たちが勝つためにどうすればいいのかを割り切った戦い方を、福島はやってきたと僕は思う。そして、メンタル的にも福島の方が勝っていた。失点するたびに動きが鈍くなっていった岐阜の選手たちに対して、「もう1点！」と声が飛んで、動きを止めない福島。考えてみたら、コロナ対策のミスで2-0の勝ち試合を0-3にされたんだっけ。勝ち点3だけでなく、得失点差でも5を失ったんだから、そりゃあ、1点でも多くゴールを奪うつもりで最後まで襲いかかってくるよねえ…（溜息）。シュート数は福島に倍以上も撃たれ、後半は全くいいところなし。結果・内容ともに“惨敗”としか言いようのない試合だった。そーいや、これまで岐阜の“夏季限定ユニ”って、勝率が滅茶苦茶悪いんじゃないじゃなかつたっけ……デザインが格好良かったから、つい忘れてたわ……（溜息）。

……そして、なんでこんな日に、こんな無様な情けない試合をホームでやらかすんですかね（激怒）。FC岐阜に関わる僕らにとって、“8月28日”が何を意味する日なのか、チームが知らなかつたとは言わせない。この試合ではゴール裏の選手弾幕が並ぶ中央に“彼”の弾幕が掲出されていたし、一発ダンマクも出た。僕らにとって、勝たなければならぬ日だった。なのに、今季最悪の試合。後半は絶望的な空気がスタジアムを包み、コロナ禍にも関わらずスタジアムに集まったサポが何人も、まだ試合中なのに席を立てて去った。僕自身は、何度も怒鳴りたい気持ちを必死で堪えて、だけど抗議の意味を込めて、試合終了後に選手が挨拶に来る前に席を立てた。ま

あ顔を見ちゃうと怒鳴ってしまうかもしれないと思ったのも原因なんですが（苦笑）。こんな負け方をして奮起できない選手は、申し訳ないけれどプロ向きではない。次は、何が何でも勝ってくれ。まだ、今季を絶望して終了にさせないと、僕らに態度と結果で示してくれ。（ささたく）

●ご時世柄、ホーム試合へ行けない私はこの日もDAZNにて観戦。その中継の序盤にアナウンサー氏が監督のコメントを紹介した。「コロナの影響で満足に練習できなかった」「ゲーム体力には若干不安がある」「70分以降の体力が一つポイントになるであろう」「70分以降の戦いについては選手達の負けたくないと言うメンタルに期待して行くしかない」。それを聞いたオイラは「70分以降はメンタルで試合しろだと？どんなコメントだ？！そんなコンディションで試合に挑んでいるのか？？」と呆気に取られていたら、もっと呆気に取られる試合展開となった。

某選手も試合後のコメントで言っらしいけど、貴方達は勝ちたくないんか？こんなホーム試合は金輪際ヤメて欲しいです。（シュナ）

●振り返りたくもない試合。あえて言うならブザマ。付け加えて言うなら、興行的には何の意味も価値もない試合、かな？そりゃそうでしょ。アウェイ席がないってことは、この勝利を喜ぶ福島のサポや関係者がスタジアムにいないってこと。たとえ、少数でも喜ぶ人がいるんなら開催した意味や価値はあると思うけど、こんな試合を喜ぶホーム・チームのサポやスポンサー様を始めとする関係者がいると思う？入場料取っで見せる試合じゃないですよ。もっと、点差の開いた試合は多々あったけど、こんな情けない試合は珍しい。それを、よりによってこの日にやっちゃうなんてね。あんなに盛り上げて、ロッカールームにユニまで掲げて、それを動画で配信するくらい、選手もスタッフもフロントも意識していながら、あのザマですよ。柏木に「勝つ気持ちが見えなかつた。」って言い捨てられてるんだからね。アノ日以来、初めて同じ日の試合となって、録画とはいえ地元局でのTV中継までであるのにも関わらず、あんな試合ですよ。もう、来季からはヤメた方がいいんじゃないかな。彼が可哀想です。

もちろん、アノ内容で昇格云々なぞ烏澁がましいワケで。なんとか出来なきゃ、後半戦全敗もあり得るくらいの状態でした。今季の開幕戦号にも書いたけど（昨季もそうだったけど）、自分の願いは『シーズンの無事終了』。ソレを再確認できました。

ただね。さんざん、ディスってみたけど、ボク自身も毎年、どなたかのSNSで8月28日を思い出すような薄情な人間。しかも、単なる傍観者。実際、戦った選手たちのことを言えた義理ではないです。ごめんなさい。

まあ、試合後にリリースされた、コロナの影響とかのエクスキューズ等を知ればね、それなりにわからないこともない。何にも積み重ねがなかつたというコトであれば、戻る場所も縫り処もなかつたワケで、文字通り『路頭に迷った』選手達も気の毒過ぎた、と言えなくもない。

でもね。だつたら、なんで、出来上がってもない布陣、戦術で臨んだのかな？ここ数年、よく耳にする『完成したら、おもしろいサッカー』ですか？ただ、どんなにレシピが素晴らしいとしても、生煮えの料理を食べたら、そりゃ、消化不良にもなるし、それどころか、腹も下るでしょうよ。そんな状態では、どんな交代をしても効果が出なかつたのは仕方ない。それでも、アウェイの鳥取戦のような試合をしてくれてたら……。そしたら、結果は同じでも、拍手を送れたと思うんです。そこまでのコンディションにも持っっていけなかつたということなんでしょうね。残念です。

もちろん、これからも応援はしますよ。今さら見捨てられないうしさ。次節勝ったら掌返すし、祝杯挙げる（笑）とにかく、どう修正してくるのか。それを楽しみにしてますよ。少なくとも、川西めがけて放り込むのはヤメテ。彼はポストはできるけど、電柱ではない。あれは、例えるなら、関の孫六で薪

## 【第17節】YS横浜0-3 岐阜

割りをするようなもの。アツという間に刃こぼれして使い物にならなくなっちゃうよね。そんなことなら、どうして、中断期間に電柱を補強しておかなかったんだろ？服部はしばらく復帰が難しいだろうに。なんでかな？

光明があったとしたら、深堀は面白い存在だと思えたことかな。横浜戦が楽しみです！（ぐん、）

●8月28日は「2021年の『解放記念日』」としてぼくの中で記憶されることとなった。「こんなひどいサッカーでも、もしかしたらJ2に昇格出来るかもしれない」という『希望拷問』から解放された日だ。

サッカーは気持ちがあれば勝てるという競技でもないし、技術があれば勝てるという競技でもない、戦術があれば勝てるという競技でもない。でも、気持ちも技術も戦術もなければ、間違いなく負ける。こんな風のだ。

そして、8月28日は「こんな風に」負けてはいけない日だったはずだ。クラブが番号入りのユニまで作ってロッカールームに用意した。もちろん、「この日」の意味を理解していた選手も多かっただろう。昨年の同時期にゴールを決めた川西は指で『13』のサインを作ってくれたのだし。でも、もしかしたら一部の（誰とは言わないけど）コーチングスタッフや選手は、「クラブの営業戦略の一環」程度に受け止めていたのではないかと危惧してしまう。それくらい、「この日」の意味をわかっていたとは思えない、気持ち（のなさ）の顕れであり、技術（のなさ）の顕れであり、戦術（のなさ）の顕れだった。試合の序盤は、リーグ前半戦で唯一「うまくいっていた」と思える川西・吉濱・柏木の『緑の3連星』の仕掛けをあえて放棄……じゃないよね（たぶん）、封印したかのような、後方から川西への縦の放り込みを徹底。しかし、川西と吉濱、柏木の距離が離れ過ぎていて、川西にぶつけたあとの攻撃設計が皆無。それではとサイドに展開してみても、受け手が「動いて受ける」ことをしないので、前を向いた福島ハンター達にいと簡単に狩られる。まるで、福島にボールを奪われる（＝奪わせる）ために蹴っているようだった。試合前に監督が言っていた（らしい）ポジションとは、「実は対戦相手のことだった」と考えれば綺麗に納得がいく。なるほど！試合に負けて、沸点を越えたサポーターがよく使う「勝つ気あんのか？」という罵りに対しての冷静筋からの「選手が『勝つ気がない』わけがないだろ！」という反論は、この試合までは説得力があった。でも、この試合を終えて、試合に出ていた柏木から「勝つ気あるのかな」という言葉が出ている。この意味はとても重い。「選手が『勝つ気がない』わけがない」との説に、現場から否定的見解が出されたのだ。

いまのFC岐阜に自分の喜怒哀楽を預けるのは、リスクな、ぶっちゃけ言うと「割に合わない」行為になっている。ああ、これは記憶にあるぞ。J2在籍時に、ぜえぜえひいひいの残留争いをしてきた時と同じだ。あの時は「それでも支えないと、応援しないと」という思いがあった。だって、そのままだと降格してしまうからね。でも、今季は昇格の「夢」が夢から幻に姿を変えて消えていくだけ。来年もJ3でがんばろう。

でも、実際はそうとばかりは言えない。先日、Jリーグの拡大傾向に歯止めをかける旨のステートメントが出た。60を超えてチーム数を増やさないと。現在、J1～J3のクラブ数合計は57。2021年のJFLには、翌年のJ3参加資格の1つである「Jリーグ百年構想」承認クラブは7。成績・入場者数等の条件を満たせば、この60という上限が今季末に埋まる可能性もある。そうすると、早ければ来季にはJ3からの降格が発生することになる。J3に降格して2年（来季で3年目）、岐阜はもう一度「残留争い」からやり直すことになるのだ。「ちょっと待てよ、まだ5位だぞ？」J2昇格枠まで勝ち点2だぞ？ 铸造は敗北主義者か？！。いやいやいや、それくらいの絶望はしっかり召し上がってしまいましたよ、この試合では。残り試合に全敗しても大きくは驚きませんね。もちろん、チームの（指導）体制に大きなイベントでも発生したら、少しは好転するかもしれませんが。（吉田铸造）

●前節の惨敗から1週間。上位対決の結果だったとはいえ、相当のダメージを受けたチームを、どう立て直すのか…と、まあ大きくメンバーを変えてくること、#44 深堀隼平がスタメンなのは予想できたけれど、なんと、現在J3得点王の#10 川西翔太と、攻撃の柱だった#41 吉濱遼平がベンチ外！中盤の守備と運動量で負けないための策だとは思いますが…と試合前は不安だったけれど、始まってみると、前節より走ってるし戦ってる岐阜の選手たち。ええと…これって前節がコンディション不良だったってだけの違い？（苦笑）ボールに対する食い付き方、反応も当たりも全然違うんですけど？もちろん綺麗なパス回しなどは期待できる試合展開ではなく、いわゆる“泥臭い”サッカー。だけど前節だってパス回しは酷かったし（苦笑）、個人的には、こういう泥臭くてもひたむきに走るサッカーの方が、僕は好きだ。それは、昔からFC岐阜を応援していて、“決して上手くはないけれど、最後まで走りきるサッカー”を標榜していた頃 - “長良川劇場”と呼ばれていた頃 - を知っているから余計に好きなのかもしれないのだけど。

それでも前半は、YS横浜がやや優勢で何度か危ないシーンが。岐阜は前半途中に、#44 深堀がDFラインを抜け出して撃ったシュートがポストを叩いたのは、ホント惜しかった…移籍元の水戸でも、決めきれない場面が多くて出場機会を失っていたという話だったから、岐阜でもそうなのかなあ…と想像していたら、後半4分、カウンターで中央の#23 大西遼太郎→左の#11 レレウ→中央の#44 深堀に折り返して先制ゴール！そして移籍後初ゴールおめでとう！（笑）いやあ、あれだけ縦に走りながら左右に揺さぶれば相手のブロックも崩れるし、#11 レレウのシュートフェイントしてからの折り返しも見事でした。そして後半12分には、自陣でボールを奪った#22 船津徹也が、#8 中島賢星とのパス交換で一気に右サイドを駆け上がり、中央にクロス。#42 柏木陽介と#44 深堀がニアに寄せて作ったスペースに走り込んだ#23 遼太郎が、ダイレクトで合わせて2点目！これで攻勢に出ないといけなくなったYS横浜に対して、守備を固めつつ、さらにカウンターを狙う岐阜。すると後半25分、交替投入された#9 山内寛史が、これもカウンターで左サイドを突破。ニアに走り込んだ#44 深堀に合わせて、相手DFと交錯したボールはオウンゴール！だけど0.5点ぐらいは#44 深堀に差し上げたい（笑）。そして少しヒヤヒヤさせられたけれど、厳しいチェックと身体を張った守りで無失点。結局、終わってみれば3-0での快勝。やればできるやん！（苦笑）

だけど、なんでこーゆー試合をホームでやらんかね（怒）。この試合の得点は、3点ともカウンターで、ポジションやパス回しで崩したっていう得点ではない。豊富な運動量と縦へのドリブル・抜け出しを主体としつつ、効果的なパスを織り交ぜていたように思う。でも、こういう戦術・選手起用で勝てるんなら、育成世代じゃなくて勝つことが重要なトップチームでは、そうすべきなのでは？と僕は思っている。もちろん、この戦術で昇格できたとしても、J2では通用しないのかもしれない。だけど、それは昇格を決めてから悩めば良いんじゃないだろうか。今はまだ、僕らは何も手にしていないのだから。もちろん、これは下位・YS横浜が相手だったということも要因に含めないといけないと思う。この試合では休ませた#10 川西と#41 吉濱をはじめとする他の選手たちをどう起用するかも検討材料だろう。だけど、たしかインタビューで#44 深堀が『本来サッカーは、こうやってバチバチにやりあうもの（前節はできていなかった）』という旨のコメントをしていたように、全員で戦うことを忘れてしまったかのような試合は、もう見せて欲しくない。（ささたく）

●後半のようなプレーを試合通してやれば良いんですよ。出来るなら何故最初からやらない？試合終了後にそんな思いを

SNSで「こう言う試合を前半からやれよ」と呟いたら、フローワー氏から「こう言う試合をホームでやれよ」って突っ込まれて、返す言葉が無かった（苦笑）。

今後は心入れ替えてプレーして下さい。本当〜に頼みますよ。（シュナ）

●キングとアシスト王が揃ってベンチ外とかいう、思わず、掛けてるメガネを外して、レンズを拭いてみたくなるような大ナタ。コレで目が出なけりゃ、あるいは……、というギャンプル（あくまで、個人の感想です）を打ってきたボク等のクラブ。そしたら、なんと、3-0で後半戦初勝利！なんだよ？あと1点取って、前節の分をチャラにしろや……、ウソです。3点差なのに緊張してました。とりあえず、安堵のため息をつくのが精いっぱい。ホント、疲れた（苦笑）。

それにしても、前半はタイムアップだからって、CKを蹴らせてくれなかったのに、後半の横浜にはAT過ぎてても蹴らせるとか。アウェイの洗礼はキツイのお。

しかし、前半見てたら「こりゃあ、先行き暗いワ。」という状況。オマケにシュンペーが絶好機をポストに当てて決められなかったり。ホント、よく立て直してくれました。横浜が前節のウチのようになってたから助かった部分もある。あと、前半をスコアレスで凌げたおかげかな？ホント、勝ちに不思議の勝ちありだったね。これでは、とても、暗雲を吹き払うとまではいかないよ。

この試合は、8勝した前半戦の布陣に戻して臨んだんだけど、『繋ぐ』ということなら横浜の方ができていた。ポゼッションも含めてね。けど、繋ぎもポゼッションも必要なのかな？と、得点シーンを見て思うワケで。敵陣で3本繋がったらゴール、だったもんなあ。

それはともかく、後半の様子を見てたら、キングやアシスト王に加えて、陽介すらも使わない布陣の方がイケるんじゃない？って気がしたんだけど、どうかな？それくらいよかったよ？シュンペーと山内のコンビ。安間さんが開幕からやりたかったのはコレか、と思えるくらいの感じ。賢星も遼太郎もよかったし。となると、キングにアシスト王、陽介の3人で一枠を争うようになってくるのかな？いずれにせよ、昇格を目標にするなら、3バック+ホンタクは固定でしょう、と思えるんだけどね。まあ、ベンチにこの三連星が座ってるのはゼイタクすぎるな。コレが街角のショーウィンドウなら人だかり間違いない。垂涎のラインナップだよ。ただ、それでは余りにもったいなさすぎるよな、と。このメンツ揃えといて、全員を使いこなせない戦術、戦略とか。それほど、余裕があるクラブなのか？ウチって。やっぱり、カオス過ぎるよねえ。ひとまず、恐る恐るながらも、鳥取戦を待つとしますか。諸事情で長良川には行けないんで、今節もDAZNの前から応援します！（ぐん、）

●快勝だった。それも、非常に「評価に悩む」タイプの快勝だ。『緑の3連星』のうちの2人、川西と吉濱はスタメンからもベンチからも外れた。攻撃の中心は、シーズン前の構想には間違いなく入っていなかった柏木と、夏に移籍加入した深堀。これが監督の冷静な判断に拠るものか、単にコンディション不良で外しただけなのか、ただのバクチだったのか（苦笑）はわからない。しかし、結果はジャックポットとも形容できる大当たりの采配になった……とも言えないんだよなあ。だから「評価に悩む」わけ。（あとで、同じ「コンディション不良」が理由でも「新型コロナ・ワクチン接種の副反応」の可能性もあるとの指摘をSNSで読んだ。あーなるほど、その視点はなかった）

なぜって、前半はYS横浜のゲームだったから。相も変わらず雑に蹴り返すだけの岐阜DF。「そりゃ、選手が変わったからってサッカーまで簡単には変わらんよね」とすら思った。様相が変わったのは後半からで、YS横浜の選手の動きの質が明らかに落ちた。集中はしているんだろうけど、その集中がカラダにうまく伝わらない、カラダをうまく動かせない、というような。それでも、岐阜のアタッカーが『緑の3連星』だっ

たらここまでうまく攻められたか？は、ちょっと疑問。ここで「深堀の動きの質の良さ」がクローズアップされてくる。彼は攻撃用のスペースを用意するのがうまい。だから、大西にしろレレウにしろ、深堀の周囲に出来たスペースを容易に使うことが出来る。先制点の深堀→柏木→大西→レレウ→深堀（ゴール）の見事なつなぎは、先に書いた「YS横浜守備陣の反応の悪さ」を割り引いても、今季の岐阜にはなかった綺麗な攻撃だった。

敢えて書きます。川西&吉濱の2枚をはずした方が、攻撃はやりやすいんじゃないか……？しかし、その「やりやすさ」の原因がYS横浜にある可能性がある（高い）のも事実。彼らは、後期スタートの前節がいきなりのリーグ戦休みの節。つまり2ヶ月近くの休み明けにさらに休みが1週間プラスされていたわけで、ゲーム勘やコンディションを上げ切れなかったという可能性は否定できない。前節・福島戦での岐阜のように。

だからなの、何度も書くけど「評価に悩む」の。この快勝が、岐阜によってコーディネートされたものと考えていいものなのか。鳥取戦のスタメンが、内容が、結果がそれを教えてくれるだろう。「勝っている時はいじらない」がチーム・スポーツの鉄則なんだけど、さてさて、どうするでしょうね。（吉田 铸造）